

大戦五年の回顧 (三)

[illegible]

羅馬尼蹶起

し、更に進出して十月中旬にはラ

羅軍の全滅

254



新片之趣見  
神但思社稷不  
思才定為一局  
養生活帝力  
自天地春

[illegible]

希王の良立

會年

Trial	Control (n=10)	MCI (n=10)	AD (n=10)
1	95	85	75
2	95	85	75
3	95	80	70
4	95	75	65
5	95	75	65

[illegible]

した。僕はあつ畜生と思はす心  
の中て叩きましたが、犬は何の躊  
躇もなく、無動作にバクバクと響  
を口に咬へました。そしてひよい  
と家の間へ跳込んで行つてし  
まひました。

「あ、惜しい事をした、あの犬  
に食られる位なら、船を食はば好  
かつたのを、僕心には指は  
なかつたのを悔ひ聲であつたや  
うなつた。彼があつたやうでな  
さうと羨む心も起りました。不當  
運命に従つてゐる言聞かして

けて、その夕方三日振りの金事  
もありき、此方へ来ることも  
水やうになりましたのです。

この町に来るゝました数日間  
窮乏と、飢の脅威は、僕の心に  
な多々の酸澁を興へて、興の  
た、僕が昔でもなほ時々自分の  
功を夢ます。空想します。け  
さ果が僕自身を動かす程に  
ふ異には尋まらなくなりました  
それ、幾時へて、この像、居よ  
運命に従つてゐる言聞かして

なことをした大にうして憎むことへ  
 起りました。そしてなほ座三  
 廣大の行方を極つて見しに居  
 られませんでしたが大空も  
 う現れて来ません。僕は一種の憂  
 い沈鬱に囚はられてしまひまし  
 う「さうしてその度から、むら」  
 う今までのその地上の纏解を離せら  
 れてゐる自分に對する批判が、方  
 強く起つて來ました。俺は犬  
 にならうとして居たのではなかつ  
 それでも俺は危くその切羽に  
 たり得たのだ。もう呼びは今の  
 やうなまじい心を抱きうぞ。  
 俺は一體何のために東京に出て  
 たか。大學生になつて死ぬ人ご  
 ざいたためにか。死ぬべき人ご  
 としての誇を保つためには、破く暇  
 まで死ねば。う心に叫ぶと僕は思  
 はず涙を流しました。なつて悲  
 かな感情で一夜となつて熱溼  
 けた感にやうに半ば夢中歩み結  
 けました。  
 「そして下宿へ歸つて見ますさ、  
 思ひかけなく先輩からの書がこ  
 いて僕を待つてゐる」。話た  
 ますのはかなりに淋しいので  
 が、その淋しさにも耐れて來ま  
 すが、自分から動き出せば、座  
 もんか、闘争かうした土地にお  
 附きになりました皆様さ、何時  
 う御一顧されやめようか。動  
 て動かばならぬ、すべて只だ  
 の行きますに身を任せるのが、  
 のやうな人間に残された途であ  
 ます。  
 「さう飛んだ長話をしました。お  
 全く面白くないとお話で何さま  
 相済みません」  
 三枝は水を濯いだ。彼の緒  
 長い髪は、蒼白くなつて、兎  
 の色がさ々々々姫を顔はても  
 た、顔で作り出した微笑も、  
 衣前襟裡に委ねられた。  
 室の窓には何時の間にかすつ  
 ぱり響いてゐた。電燈の光も水  
 うな常夜灯に奪ひ取れた。火  
 の水氣が襲へが、肌を密に攪づ  
 いた。八人の客員達に酔の醗め  
 成は陰気、或は憂しなる、或  
 陰しい、或は淋しなる、各々の

新春詞壇

10

威朝晴雪  
一等真境與台曹  
金鑰開寶府廣後錄星極臺  
會輿和殿東天宮後錄星極臺  
太急允逸有連新境樹十倍  
陽街復舊苑化裝中  
松韻響旌旗日脚紅天時方  
上入勝遊樹色微動  
人月曉六望天南萬廟作  
奕輝祥雲瑞閣劉興與未窮  
奏露紛香樹影暗竹外歌  
一童歡醉醒同友  
並冠電日暖醉醒同友  
不候使使歸來水  
陳煥映映聯同化力勞心憂

四海聞開明夜看田被九朝遠  
新嘉慶聖年又年豐字宙林  
豐收豐稔群臣共賀  
目耀品譽成名騰功際  
繁華進奉瑞色慈王宮  
傳萬民椒快日輝前時敬  
志高拜天恩日月情何厚  
志高修德聖奉表表貞  
正者此正一賜使許子歸詞在傳

謹賀新年

山 釜

大池回漕部

電話 六七三番

謹賀新年

山 釜

一ムリムン商會

電話 五五九番

謹賀新年

釜山佐藤町

東亞煙草株式會社

釜山出張所

謹賀新年

京釜線 釜山

朝鮮纖維工業所

謹賀新年

釜山佐藤町

東亞煙草株式會社

釜山出張所

謹賀新年

山 釜

朝鮮鮮興業株式會社

釜山支店

謹賀新年

山 釜

大池回漕部

電話 六七三番

謹賀新年

山 釜

一ムリムン商會

電話 五五九番

謹賀新年

釜山佐藤町

東亞煙草株式會社

釜山出張所

謹賀新年

京釜線 釜山

朝鮮纖維工業所

謹賀新年

釜山佐藤町

東亞煙草株式會社

釜山出張所

謹賀新年

山 釜

朝鮮鮮興業株式會社

釜山支店



### 牧野男の聲明

平和主義並に門戸開放主義

▲時局の進展に對する聲明  
▲平和主義並に門戸開放主義  
▲外人の土地所有禁止  
▲外人の土地所有禁止  
▲外人の土地所有禁止

### 愛蘭講和委員

▲愛蘭講和委員  
▲愛蘭講和委員  
▲愛蘭講和委員

### 宮中政治始式

▲宮中政治始式  
▲宮中政治始式  
▲宮中政治始式

### 伯林水兵降服

▲伯林水兵降服  
▲伯林水兵降服  
▲伯林水兵降服

### 伯林再び市街戦

▲伯林再び市街戦  
▲伯林再び市街戦  
▲伯林再び市街戦

### 波蘭共和國準備

▲波蘭共和國準備  
▲波蘭共和國準備  
▲波蘭共和國準備

### 議和費用支出

▲議和費用支出  
▲議和費用支出  
▲議和費用支出

### 徐總統の謝意

▲徐總統の謝意  
▲徐總統の謝意  
▲徐總統の謝意

### 陸徴祥と二要求

▲陸徴祥と二要求  
▲陸徴祥と二要求  
▲陸徴祥と二要求

李完用伯試筆  
氣壯神清  
石岸  
牙祝春風詩一首  
注書故伊藤公三題贈東新  
大正六年元月一日李完用伯試筆

世界の大勢と朝鮮  
▲世界の大勢と朝鮮  
▲世界の大勢と朝鮮  
▲世界の大勢と朝鮮

世界大戦の一教訓  
▲世界大戦の一教訓  
▲世界大戦の一教訓  
▲世界大戦の一教訓

徐總統の謝意  
▲徐總統の謝意  
▲徐總統の謝意  
▲徐總統の謝意

男女の生殖器病  
大入御禮  
黄金館  
オキシバサ  
サバサバ



また野生種も澤山居る  
羊と山羊とは親類より

▽一例を示せば山羊は

◆敵の一旅團を全滅し捕虜一千武器多數を占獲◆

り、今暖りにエカテリンブルグを  
東京市ミシブルを名古屋市ミ  
ベキウイヤ附近に於てその一部は

描きつゝ蒸氣唧筒の威力を示す

鐘が打鳴らされて市民を驚かし

同行雄氏  
(安政六年生六十一歳)  
儒者有名な磐溪氏の二男、如雲の弟である

坪内文學博士  
(安政六年生六十一歳)

的なること活動的にして狭  
びエ市經由東海道線に赴かしめ

西伯利派遣軍

鳥長鶴田禎次郎氏は西

東易者數名

坐礁後報

部上陸せしめ海岸より十町餘隔

唧筒の威力を示す

3	2
5	1
4	3
6	4

同行雄氏  
(安政六年生六十一歳)  
儒者有名な磐溪氏の二男、如雲の弟である

坪内文學博士  
(安政六年生六十一歳)

消防出初式  
(上) 櫓子乗下 卿



五いん日ふ番はつ附ぱう發表

十二月二十八日

二、三日は例年になき酷暑であつた。

武徳館にては五日午前八時より同館に於て本年の稽古始式を行

口を行ふ筈なり  
行敏子女史 鎮海一心寺の御

以下喜樂、智惠子、伊達殿、花、次郎、  
子、又、次子、更、子、云、子、

長春の馬賊

全焼七戸

市內電話  
二五  
林野之山田心方、松村

年新賀謹

奉天  
原口聞

年新賀謹

京城南山町三番地  
長電話二三電三四四九二  
京城  
太田驛階上  
長電話一四〇番  
同出  
金山棧橋  
電話二一九番  
同喫茶店

年新賀謹

土木建築請負業  
遠田組  
京城中區日之本町  
田中常吉

年新賀謹

朝鮮銀行釜山支店  
第一銀行釜山支店  
百三銀行釜山支店  
殖產銀行釜山支店  
釜山商業銀行  
慶城銀行釜山支店  
漢城銀行釜山支店


年新賀謹

京城蘆葉町  
電話五一〇六七番  
三巴酒造株式會社  
平壤壽町  
電話五一一番  
三巴出張所  
太田春日町  
電話二五番  
三巴出張所

年新賀謹

朝鮮京城漢江通拾六番地  
合資進和商會  
龍山出張所  
電話六六二番

年新賀謹

京城本町  
  
三越吳服店















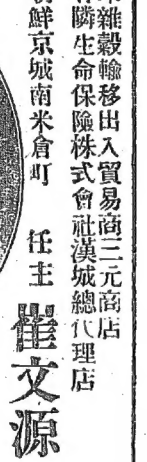
謹賀新年  
京城太平町二丁目  
鑛業  
松永分析所  
電話長二八三三

新 梁  
年 院  
病 同

仁川山手町二丁目  
奥田精米所  
電話六〇八番

釜山大廳町二  
銘酒  
大  
上西酒店

食  
京



會 運 送 部 主 任	清 澤 支 店 支 配 人	樺 山 支 店 主 任
宇 都 志 直 吉	松 山 元 次 郎	高 木 源 三 郎

村井農場

久永麟一

慶尚北道慶山

山  
管  
理  
所



